

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500245		
法人名	医療法人社団 きのこ会		
事業所名	グループホーム 笠岡市炉端の家		
所在地	岡山県笠岡市吉浜1399		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 3 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の状態は要介護①～⑤で、3分の2の方が90歳を超えている。一人一人の入居者の身体状態や認知症状に応じて柔軟に対応をしている。日課にラジオ体操、口腔体操を取り入れて健康管理にも力をいれている。多職種(医師、看護師、歯科医、作業療法士、栄養士、薬剤師)との連携を行い、日々のケアにあたっている。食事は、職員が作ることもあるが調理員(2名)が日替わりでおいしい食事を作り提供している。その方に応じた食事形態、食事・水分量の把握、食事パターンを考えている。食事のバリエーションも多く入居者の好みや希望も取り入れ食事をおいしく、また楽しんでもらえるように力を入れている。長期間になっているが新型コロナウイルス感染防止対策を継続し入居者、職員の健康管理を行っているのでホーム内の感染は今のところない。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500245-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 2 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、“炉端の家”に長く在籍した経験から、“共に生きる共生”を信条としている。職員と利用者・家族を両輪として、きのこグループの理念である『利用者の声を聴く』ようにし、希望されていることを出来るだけ実現できるように心掛けている。コンビニへ買い物に行きたい時は、職員と一緒に外出し、食事はその方の希望に沿うものを提供している。イチヨウの下で銀杏を拾ったり、収穫しに合わせ物を提供している。た柿を吊るしたりして、職員と利用者が一丸となり盛りだくさんなイベントも実施できた。また、利用者を中心として、全職員のやりたい方向性・意見を聴き、納得できるものにまとめてから進めるように工夫している。毎年の目標を掲げていて、『入居者と職員、みんなが自然と笑顔になれる日々を過ごす』を誰もが見える場所に提示して、実現できるように努力を皆でしている。食事に関しては、近隣の方から旬の野菜の差し入れがあり、調理担当職員がその食材を使い季節感あふれる献立や行事食を提供して、利用者を楽しませている。管理者が看取りに関する職員の心構えや知識についての意識を高めることに、特に力を注いでいる。看取り後の職員へのメンタルフォローに研修を重ねたり、緊急ミーティングをしてコミュニケーションを密にしているが、対話ができない時には、付箋に気持ちを書いてもらい目を通す方法を取り、職員の気持ちを理解する様に心掛けていると熱く語っている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、法人内のグループホームの理念を法人のグループホーム部会で確認し、職員の目に入るところに掲示している。ホームの理念も引き続き掲示し、理念を踏まえて日々のケアに取り組んでいる。	法人とグループホームの2つの理念を廊下に掲示している。月1回のカンファレンス時に、振り返る場を設けていて、職員から意見も聴取している。新入職員へは、グループホームの理念を伝え、日々の業務を通して、浸透できるようにしている。職員の異動があり、理念について今後深められるように検討中である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催し地域との交流について話をしている。定期的に近くの中学校の吹奏楽部の生徒さんによる青空演奏会を炉端で開催している。畑もあり、草取り、水やりなどをしていてと地域の方が声をかけてくれたり、畑仕事を手伝ってくれるなどの関係ができています。	中学生の青空演奏会が定期的に行われている。法人主催の文化祭に保育園からは、貼り絵の作品が展示され、家族や地域の方にも参加して頂いた。名誉理事長のカラオケ大会が人気を博した。近隣の方の畑を借りて、きゅうり、ジャガイモ、キュウイ、ターサイを育てて、利用者と一緒に収穫もできた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(地域交流会)の中で家族や地域の方にホームの状況、活動状況などを説明したり、話をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話あった内容や意見をホームに持ち帰り、ホームの運営に生かしている。職員へは議事録を見てもらい情報共有をしている。笠岡市長寿支援課との連携もある。	地域行政協力委員、長寿支援課、民生委員、中学校の教頭先生、職員、家族が参加している。入居者状況、職員状況、活動状況の報告を行った。グループホームの定義を説明したり、直接顔を合わせて話をする機会があつていいとの意見が挙がった。来年30周年を迎えるので、地域との関わりを深めたいとの思いがある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	環境整備に関すること、車両のこと(公用車の扱い)など笠岡市へ連絡し相談している。年度終了後に事業報告を提出し取り組み状況を伝えている。運営推進会議の参加もあり協力関係はできている。	窓口は、新しい管理者に引き継がれた。長寿支援課の方が、運営推進会議にも来られるので、連携が取れている。直近では、街灯の明かりが消えたので連絡をした。他施設で感染症があり、マニュアルの確認や対応方法について話し合った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引き続き、入居者が安全に安心して生活ができるように見守りや環境面の整備、玄関と居室2部屋に置き型のセンサーを設置している。身体拘束廃止の指針をもとに職員間で共有し日頃のケアに取り組んでいる	法人から研修動画を作成するようにとの声が掛かり、考え方や拘束について再確認する場となった。何かあつた際には、家族との連携を図るようにしている。些細な事でもヒヤリハットに記入し、今後の事故を防止できるようにしている。日中は玄関の施錠はしておらず、センサーで対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内や法人の勉強会に参加をしたり、ヒヤリハットの記入、入居者に虐待が疑われるような行ないがないか、委員会で話をして虐待防止に取り組んでいる。入居者の対応が難しい場合は、その都度話し合いをし職員が抱え込まないよう気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については動画を見て理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約前に、家族から話を聞いている。契約時にも、管理者が家族へ説明し、話を聞いている。契約時、それ以外でも管理者が説明を行い、納得して頂けるようにしている。入居前に入居者の方に会いに行き本人さんの思いを把握するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で年3回の家族会が中止の状態。運営推進会議にご家族に参加をお願いし意見を頂いている。面会等で家族から意見があれば記録に残している。	現在、面会は窓越しや玄関先でパーテーションを敷いて対応している。地域に住んでいる家族が多いので連携が取りやすい。毎月の往診時や些細な状態変化があった際には、連絡を取るようになっている。毎月郵送物に、新聞や手紙を同封して情報を伝えている。季節の物、パジャマや靴下が欲しいとの要望が挙がった際には、家族に相談している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はいつでも相談にのって下さる。管理者は、日頃から職員の相談、意見にいつでもものようにしている。時間がある時を利用して意見交換をしている。困ったことや大きな事故が心配される時は、緊急ミーティングをし職員の意見をきいてサービスにつなげている。	管理者は職員間のコミュニケーションを大切にしている。何かあれば職員間で顔を合わせて、話し合うようにしている。新入職員が来た際には、新しい風が入ってきたとの気持ちで接している。3ヶ月に1度、法人全体の管理者会議にも参加して、悩みや相談ができる体制が整えられている。寝たきりの方への対応として、シャワーチェア導入を検討した。	職員とのコミュニケーションを大切にして、更にたくさんの意見を出し合ってはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必用に応じて法人の方へ連絡、相談をしている。コロナ渦の対応で職員が休むこともあり勤務体制に支障がでることもあるが勤務を調整したり休憩をとるなどで対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人の研修会やきのこグループホームの教育委 員会の勉強会に参加している。 管理者は県の 虐待防止オンライン研修や法人外の研修に参加し ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	管理者は、きのこグループホームの管理者部会へ 参加したり、必要時にはいつでも連携をとってい る。内容を職員へ伝え、サービスの向上に役立て ている。きのこグループホームの教育委員会の担 当者は、勉強会の企画、開催をし連携を深めてい る。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人さんに会いに行き思いを聞くようにし て安心して入居が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族の話聞くようにしている。少しでも安心して 入居が出来るようにしているが、コロナの感染防止 対策で以前よりじっくり家族と関わる時間がすくな いので関係作りが難しい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居前に管理者やケアマネは本人や家族と会い 必要な支援のための情報収集を行うようにしてい る。入居日からケアプランをもとにサービスが開始 できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人さんとコミュニケーションをとりながら、本人さ んが話す言葉を記録に残したり、出来る事をしてもら いながら元気で過ごして頂けるよう関わる様にし ている。洗濯物をたたんだり掃除、家事の手伝い など協力して下さるので助かる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ対応で家族と関わる機会や時間が以前より減っているが、電話などで状況を伝えたり、玄関先での面会の時本人さんの様子を伝えることで少しでも安心して頂けるようにしている。iPadを活用し炉端のラインでご家族と写真のやりとりをすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策でまだまだ制限もあるが、窓越し面会や主治医の許可が出た方についてはご家族と相談し自宅へ外出されることもあった。	現在、面会は窓越しや玄関先でパーテーションを敷いて対応している。島に住んでいた方へは、昔馴染みの風景写真集がプレゼントされ、友人から年賀状のやり取りが今でも続いている。病院受診の帰りには、昔住んでいた家の周りをドライブした。職員が同行して笠岡市内の名所をドライブで連れて行ったら喜んで頂けた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で食事をしたり、くつろぐことが出来るので、入居者同士が声をかけあい、交流できている。入居者同士が助け合う場面もあるが、時に口論やトラブルになる時もあるので、職員は見守りながら対応している。席の配置など環境整備にも気をつけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の方に手紙を書いて送りいつでもお越し頂ける様に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者から出る言葉や思いを大切に記録に残している。面会時、ご家族から入居前の生活、意向などを教えて頂くこともある。それらを参考にし本人らしく生活できるように職員も取り組んでいる	利用者とのコミュニケーション大切にしている。きのこ道という動画を作成するにあたり、利用者・家族から聞き取りを実施して、より良いケアができるようにとの思いが強くなった。あまり言葉を発しない方へは、普段聞いている内容から話題に触れて、ゆっくりと耳元で話したら、笑顔で応えてくれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に聞いたり、ミーティングやカンファレンスの中で話し合いを行い情報を共有するようにしている。直接面会が難しいがご家族から情報収集ができるように努めた。軽度の認知症の方は本人さんから情報収集することも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録を残し、変化があれば職員間で意見交換している。情報の共有ができるよう話した内容は記録に残し一人一人に合わせた対応ができるように取り組んでいる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネはカンファレンスで職員全員の意見や考えが反映されるよう事前にコメントをもらいカンファレンス、ケアプランを作成している。新しい入居者は自分の思いを伝えられるので一緒にケアプランを考えている。職員が共有できるようにカンファレンスシートで確認してもらっている。	介護計画は、暫定プラン作成後、1ヶ月、何もなければ3ヶ月、その後は6ヶ月で見直している。普段の生活の様子を記録に取り、担当者ケアマネジャーが相談しながらプランを作成している。ケアマネジャーは、職員全員の意見を反映できるようにしている。また、決めつけではなく本人の意見も尊重していると語ってくれた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づきや工夫したことなども書くようにしている。記録を通じて職員間で情報共有している。本人さんの言葉を大切に記録に残している。大事と思われることは、ピンクマーカー、ヒヤリは緑マーカーと色づけしてわかりやすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化があった時や変化が予測されるときには職員間で話し合い、その状況に対応できるようにしている。また、ホーム内で解決できないことは、家族に相談し協力をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議(地域交流会)を行っている。コロナ感染対策で規制はあるが側の中学校との交流できている。近所の方に畑をかり、近所の方が声をかけて下さったり、手伝ってくださる関係が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回、法人のきのこエスポール病院の主治医の先生の往診がある。協力病院へは、職員が付き添いを行う。他の病院への定期受診は家族が付き添いをして下さる。	母体が病院ということもあり、手厚い医療が受けられる。理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、栄養士とも連携が取りやすい。訪問歯科は3ヶ月に1回、定期検診があり、必要に応じて来て頂ける。きのこ診療所には耳鼻科もある。他科へは、家族と相談した上で対応している。「君といつまでも」を歌う名誉理事長の往診もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か困ったことがあれば、協力病院の外来看護師がいる時間帯には、連絡を取り、状況報告、相談をしている。毎月の往診時にも相談している。その他は協力病院と連絡をとれる体制は整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時 協力病院へ入院した場合は、職員が様子を担当医や病院の職員と話をして情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の身体状態を見ながら、管理者が家族と今後のことについて、相談するようにしている。主治医に相談を行い、ホームとして、その方の今後の方針を決めるようにしている。高齢になってきているので、重度化している場合、管理者は、職員とホームの受け入れ体制について話をするようにしている。	入居時に「看取り介護に関する指針」にて説明し、同意を得ている。終末期に差し掛かった際には、再度本人・家族と相談して思いを把握している。終末期の利用者がいた場合には、1人で考えるのではなく、みんなで考え、職員にも安心感を与えている。看取り看護実施後カンファレンスにて、振り返りの場を設けている。家族からは感謝の言葉が聞けた。	看取りについて、意識を高めてみてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員、入居者、関係各所の連絡先、緊急時の対応についてのマニュアルを一つのファイルにまとめている。緊急対応マニュアルが活用されておらず、管理者は定期的に職員と確認している。コロナ対策のマニュアルや感染対策についてもファイルにまとめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、土砂災害訓練をしている。現在、3日分の食料と水を備蓄している。地域交流会で災害対策について笠岡市、地域と話をし意見交換をしている。議事録は職員へ伝達している。	年4回、昼夜想定で火災・水害・地震想定で訓練を実施した。定期的に災害委員会を開催し、情報を共有している。市の職員や地域住民とも連携を図っている。ハザードマップを確認して、避難経路・方法を職員と一緒に考えている。備蓄は、水は施設内、食料は隣接する研修センターに3日分程、保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報を共有し、引き続き、入居者の思いを大切に、入居者一人一人に合わせて関わるようにしている。対応に慣れない職員にはその都度、職員間で話をしたり管理者と話をし振り返りをしている。	呼称は、苗字か下の名前に「さん」付けで呼んでいる。反応がいい場合には、その方に合わせた呼び方をする場合もある。居室の扉には鍵がついていて、施錠の有無は入居時に家族にも理解を得ている。利用者の希望に合わせて、同性介助にも対応している。法人内の勉強会にも参加して、学びを深めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ対応で生活にまだまだ制限はあるが、本人さんが楽しみにしていることを本人さんから聞いたり、言えない方には状況や本人さんの様子から判断して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで過ごしてもらえるように対応しているが、その人らしい生活について日々、職員間で思いが違うこともあり職員も悩みながら対応を考えている。カンファレンスで一人一人に合わせた対応を検討し実践するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問カットを利用。馴染みのある美容師さんにカットしてもらっている。衣類は家族と相談し、その人に応じた物を選んでいただいている。身だしなみには気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日や季節の行事には、日常の会話で利用者の希望を取り入れている。出来る事を探して、入居者の力を引き出すように関わっている。『おいしい』『うわ、きれい。おいしそう』などを大切に食事を楽しんでもらえる工夫をしている。	月の半数は外注で食材が届き、残りの日数は、食材選びからの手作りをしている。利用者から嗜好調査を行い、握り寿司、チラシ寿司、サンドウィッチ、ハンバーガーが好評のメニューとなっている。作ったメニューは献立表に記録している。食事風景も和やかな雰囲気の中、美味しく頬張る姿が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養スクリーニング加算で半年ごとに栄養状態の確認をしている。一人一人の状態に合わせた食事形態、水分摂取の方法、食事、水分量を検討、実施し、食事、水分量の把握をしている。往診で主治医へ栄養や水分量について相談している。法人の栄養士さんとも連携を持ち、相談、アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のトラブルがある場合は訪問歯科へ連絡、対応してもらっている。モーニングケアやナイトケア時、口腔ケアを行っている。口腔ケアを嫌がり毎回できない人もいる。できる時にタイミングをはかりしてもらっている。職員も意識をもちケアをしている。定期的に歯科医の訪問がある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者3人を除いて、紙パンツ、尿取りパット(日中、夜間用)、紙オシメを使用している。一人一人の排泄パターン、排泄状況に応じて、トイレへ誘導したり、使用するものを検討し、対応している。	トイレは各居室についていて、車椅子にも対応できる広さとなっている。食事・排泄チェック表を活用して、職員間で情報共有をしている。トイレへ行くタイミングでの言葉掛け、トイレ掃除中、お腹の張り具合を見て、排便チェックを行っている。現在、布パンツで過ごされている方が4名おられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の身体状態に合わせて、水分補給や排便を促す食べ物を取り入れている。記録に残し、下剤の服用、量や服用時間の調整をしている。元気な6名の方が参加しラジオ体操を日課にしている。回廊式の廊下を一人で歩いて運動されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否や興奮される方もいるが、怪我のないようタイミングをみて入ったり職員間で協力し、できるだけスムーズに入浴が出来るようにしている。安全に気をつけ見守りしながら対応している。身体的に重度になり職員二人の介助が必要な方もいるが浴槽に入れるよう対応している。週に2～3回入浴されている。月10回程度。	入浴は週2～3回提供。お湯は毎回入れ替えていて、利用者に合わせた温度調整となっている。浴室にベルを設置していて、すぐに職員を呼べる体制が整っている。入浴を拒否される方へは、職員や時間帯を変えて対応し、決して無理強いはない方針。季節湯として、ゆず湯や桜湯をして気分を味わって頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活状況を把握し、夜間入眠出来るように生活リズムを整えるように関わっている。夜間影響がない程度に、様子をみながら、自室での休息も取り入れている。睡眠リズムを整えたり、スムーズに入眠できるように眠剤を服用している方が1名いる。家族にも夜間の様子を伝える様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤関係は、日常記録のファイルにはさんで、いつでも確認できるようにしている。毎月ファーマシーセと薬局の訪問により、薬に関するアドバイスが受けれている。薬剤管理指導報告書も参考にしている。ケアマネが対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で夏祭りを開催したり法人内のグループホーム同士の文化祭を行った。入居者が関心があることや興味があることを参考に企画し皆さん楽しまれた。家族に編み物の毛糸や本などお願いすることもある。iPadを活用し歌や、音楽、動画を見て頂くこともある。楽しい時間を過ごせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中学校へ散歩へ行くこともあった。近所や敷地内を散歩したり、玄関先で気分転換される方もおられる。時にはドライブへ行くこともあるが、外へ出る機会は少ないように思う。	気候の良い日には、近隣の中学校に散歩へ出掛け、体育の授業を見学したこともある。春先には、近所の方の庭に咲く桜の木を見て、おやつを食べて季節感を味わっている。青空演奏会や畑での収穫作業、つくしや銀杏を採りに出掛けている。職員とのドライブでは、笠岡市の名所巡りを堪能した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により、金銭は職員が管理をしている。品物により家族に相談し、職員が買い物を代行することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族に電話をし利用者とかわって話をする機会がある。家族から時々電話や手紙が届く方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節、イベントを感じてもらえるように利用者と協力してインテリアし、利用者にも張り合いがもてるように、また、心地よい環境作りを心がけている。照明、音にも気をつけ落ち着ける環境に配慮している。温度、湿度の管理など職員間で統一はなかなかできていない。気をつけている。	キッチン前に対面式のカウンターがあり、調理の様子、音や匂いが伝わってくる。畳のスペースで洗濯物量をしている方の姿が窺えた。リビングでは、数字合わせやパズル、童謡を元気よく歌っている様子も窺えた。YouTubeでは、クイズ動画、地元の自然風景を流して癒しを与えている。利用者同士の会話もあり、和気藹々とした雰囲気だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席へ座られている。トラブルが続くと落ち着いてすごせるよう席を変えたり環境整備をしている。一人で作業がしたい方には、畳のところで洗濯物を畳んでいただくなどで対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に、本人の馴染みの物を置いてもらうように家族にお願いしている。家族からの年賀状や家族との写真を飾ったり、自分で作った作品を飾ったり、それぞれの方に合わせた空間になるよう工夫している。月日を重ねますますその人らしい素敵な部屋になっている。	備え付けは、エアコン、ベッド(畳)、洗面台とトイレ、クローゼット、押し入れ。仏壇を持ち込まれ、位牌に毎日手を合わせている。家族からプレゼントされた手作りのアレンジ写真、レイ、Run伴の襷が掲げられていた。坂本九の「上を向いて歩こう」を聴いて、リラクセスしている方もいる。居室でTVを観たり、読書をしたりしてゆっくり過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、身体状態、認知症状にあわせて、安全に過ごせるようベット、机、タンスの配置を工夫し環境整備をしている。事故があった場合は、原因をアセスメントし早急に対処し再発防止にと止めている。家族へも連絡し一緒に考えるようにしている。職員によっては入居者の状況が把握できていないためミーティングで対策を考えた。安全面には特に気をつけるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				